

「家族の時間を大切に」

教頭 保坂 泰司

本日で、平成29年度 第1学期の教育課程を無事に終了することができました。今学期には、入学式、1年生を迎える会、修学旅行、みどりの教室等様々な行事がありました。子どもたちは、協力しながらクラス、学年で行動することでどの行事も充実させることができました。これも、日頃の地域・保護者の皆様のご協力があったることと感謝申し上げます。

さて、明日から子どもたちにとって待ちに待った夏休みが始まります。子どもたちには、規則正しい生活を心掛けながら(7月の懇談会時に配付した「すくすく のびのび 子どもの生活向上キャンペーン」の資料を活用して)計画的に学校からの課題や普段の生活の中ではできないことに取り組んでほしいです。そのためにも、交通事故や不審者等に対し、気を付けるよう声掛けをお願いします。2学期の始業式には、よりたくましくなった子どもたちに会えることを職員一同楽しみにしています。

さて、話は変わりますが、次のそれぞれのケースにおける2人の子どもの会話を読んでください。

【ケース①】

- A「日曜日、公園で遊ばない？」
B「月曜日、算数のテストがあるんだ。」
A「へーそうなんだ。じゃあ、日曜日 10:00
に公園で待ってるね。」

【ケース②】

- A「日曜日、公園で遊ばない？」
B「月曜日、算数のテストがあるんだ。」
A「わかった。じゃあ、また今度ね。」

なぜ唐突にこのような会話を提示させていただいたかという、最近よく「コミュニケーション」、「コミュニケーション能力」という言葉がよく見聞きされています。しかし私自身いつも思っていたのですが、「コミュニケーション」についての定義付けが人それぞれで、はっきり定まっていないような気がします。一般的に「コミュニケーション」とは、話し手と聞き手がいて、話し手の発話することを聞き手が理解し、それら一連の活動を交互に繰り返すことと認識されているのではないのでしょうか。しかし、この認識だと【ケース①】のようなことが起こりうると考えます。AさんはBさんの言うことをそのまま理解し返事をしているだけで、その裏にあるBさんの意図することや想いまで読み取ることができていません。それに対して【ケース②】では、AさんはBさんの発話することを聞いて理解をし、さらに「推論」をしてBさんの意図することに対して返事をしています。私は、相手のことを想い、その意図することを「推論」しながら言葉のやり取りをすることが、「コミュニケーション」であり、そう自分の中で定義付けています。「コミュニケーション」とは、表面的ではなく深いものであり、かつ人を喜ばせたり、人を傷つけることもあるものです。だから、普段から「推論」を働かせながら「コミュニケーション」を大切にしなければなりません。その「推論」する能力は、友達や家族など人との会話で伸びると言われています。その際、会話の中に「間」を入れることが効果的だとも言われています。

そこで、夏季休業中は先述した「すくすく のびのび 子どもの生活向上キャンペーン」に家族で取り組んでいただき、家族で会話する時間をたくさん確保していただきたいと思います。そして、お子さんの「推論」する能力を伸ばしてください。このことが母語の力をよりはぐくみ、さらには学力の向上や本校の研究テーマ「自分から進んで」の実現に繋がるものと考えます。

ぜひ、家族での時間を大切にしながら、楽しい夏休みをお過ごしください。

